考：震災

【震災を自分事として、客観的にとらえる】

１２日の「東日本大震災を知る」、１５日の「発生後の状況を知る」をうけて、１７日に震災講話が行われた。講師の瀬成田実さん（以下、「氏」）は、年始の能登半島地震と東日本大震災を対比させながら、関東大震災は「焼死」、阪神大震災は「圧死」、東日本大震災は「溺死」によって命を落とした事例が多いことに触れた。つまり、地震によって引き起こされたその後の災害によって死傷者が出ているということだ。

地震は、火事、建造物の倒壊、津波、土砂崩れなど、様々な災害を連動的に引き起こす。個々人としては、居住地域の地形をよく知ることや、家屋の耐震補強および家具の転倒防止、火災防止のための漏電防止への備えがされているかは、最低限知っておくべきだろう。できることなら、水道管の耐震補強や老朽化への対応など、ライフラインの損壊に備え、自治体等がどこに、どれだけの予算を費やしているかを考えたり、町内会などがどのように避難所を運営し、非常用物資がどこにどれだけあるのかについて理解するために、防災訓練などに参加したりすることも、市民として大切なことだと思う。

さて、３回の震災学習を経て、現在はそれぞれ担当の市町とテーマについて調べている。自分が調べたことをまとめて終わりではなく、他市町を含めた仲間が調べたことからも学んでほしい。地形・地盤・築年数などの諸条件や歴史や伝承などの教訓によって、同じ災害でも被災状況に違いが出るということを掴んでほしいからこそ、発表会まで行うのだ。

【3回の震災学習を経ての感想】

東日本大震災発生時、親と私は広島にいましたが、曾祖父母・祖父母が石巻で被災しました。幸い無事だったのですが、やはりとてつもなく恐ろしかったらしく、しばらく時がたった小学生の頃、津波の様子や地震の揺れを聞かされているとき、だんだん涙目になっていた祖母の姿を、今でも鮮明に覚えています。

話を聞くまでは、石巻の被害状況以外があまりわからなかったので、全く別の場所で被災した人たちの話はとてもためになりました。

話を通じて、やはり東日本大震災は、多くの人の命や家、築いてきたものを一瞬で破壊したとても恐ろしい災害だったことが伝わりました。元旦にも石川を大きな地震が襲い、大災害の危険性が改めて周知されたところでこの話をきけたので、より防災・減災意識が高まったと思います。

今回話をしてくださったきずなＦプロジェクトの人や瀬成田さんの話を、これから家族や色々な人たちに話して東日本大震災から学んだことを活かしたいと思います。

東日本大震災では、多くの人が被災したということはもちろん、小中学生をはじめとした子どもたちにも危険が及び、被災したということが分かり、衝撃だった。他人や知人を助けようとして亡くなった人も多くいる一方で、逆に助かってしまって罪悪感を覚えている人もいるということに、この震災と人の心の関わりの複雑さを感じた。

人間に限らず、生命の力は自然の力には遠く及ばない。震災を甘く見て、被害に遭い、死傷した人も少なくない。だからこそ、過去の震災を風化させないため、経験者やその話を聞いた次の世代が震災を語り継ぎ、これから起こる可能性がある更に大規模な震災に備える。これが、大災害に向き合い対抗するための”唯一の”策だと思う。

今回の災害の勉強をして学んだことは、２つあります。１つ目が、家族や友達などを大事にすることです。震災で家族や友達を失ってからではもう遅いからです。２つ目は、震災の恐ろしさを甘く見てはいけないということです。災害には色々な種類があって、地震が起きることによって火事になったり、津波が来て車や人が流されてしまったり、命がなくなってしまうからです。

東日本大震災では、何万人もの人が死んだり、行方不明になったり、今回の震災の授業を受けて改めて震災の恐怖を知りました。授業を受けるとき感じたこともあります。それは、自分はまだ０歳で生まれたばかりでしたが、決して他人事ではないと感じました。いつ地震が来るかもわからない。いつ津波が来るかもわからない。だからこそ、この授業で教えていただいたことをもとに、いざ地震が来たときどのような対処をすればいいのか友だちと話してみたりしたいと思います。自分たちが今、食事や住むところがあったりできていることは、当たり前ではないことだと、ありがたみを感じました。

日本は地震や台風、大雨が頻繁に起こる地震大国です。元旦には能登半島地震、2011 年には東日本大震災が沢山の人々の命を奪い、沢山の人々の心に脅威をもたらしま

した。家族を失うなどしても、その過去を変えることはできません。しかし、未来のことは変えることができると僕はこの震災の講話を聞いて感じました。もし、自分が生きている際に大地震があったときに、家族などを失わないように事前に話し合っておくことや約束を決めるなど、対策をするのが大切だと感じました。このような大地震は知っている人から知らない人へ経験を受け継いでいくことも大切だと感じます。そのため、僕も大人になったら、子どもたちに大地震のことについて、起こったときに何が必要か、どうすればいいのかを伝える、子供と大人の架け橋になることができたらいいなと思いました。

東日本大震災は、津波などで多くの被害をもたらしました。そんな中でも、地震を経験した中高生たちがＦプロジェクなどを立ち上げたり、石碑を作ったりと中高生（自分たち）にもできることはあるのだなと思いました。そのためにも、地震の知識を学び、地震が起こったときにも冷静に対応できるよう、野外活動までの総合などの時間を大切にしていきたいなと思いました。

東日本大震災で自分の大切な人や家族を失った人が宮城県に何百人もいるので、命の大切や亡くなった人の思いを考えながら歩んでいきたいと思いました。また地震で家族がなくなった人や避難生活を経験した人たちの話を聞いて、震災がまた来た時に、自分たちはどうすればいいかどうすれば震災からどのように身を守ればいいかと考えました。そして、そのつらい経験をもとにまだ震災を知らない小さい子などに私も色々な工夫をして東日本大震災や関東大震災などの災害を忘れないでほしいと、それを発信していきたいと思いました。

私は、東日本大震災について授業以外で触れたことがありませんでした。でも今日の震災講話の話を聞いて、授業以外でも、震災について、少しでも詳しく知りたいと思うことができました。話の中で特に印象に残っているのは、実際に震災を経験した人たちの思いです。経験した人の中で「誰かを失ったとき、後悔してももう遅いです。自分の家族は一つしかありません。伝えたいことがあればその時に伝えてください。１分、１秒を大切に過ごしてください。」と伝えていました。子供達の中には「ただいま」と言うことができなかった人もいると思います。日頃から備えておくことで救えた命があったはずです。これから私は、家族と話し合って、どこに避難するのかなど備えておこうと思いました。

今回、実際に東日本大震災を体験した方に話を聞いて学んだことは、行動をしなければ助かる命も助からないということです。ビデオで中学生がおばあさんを助けたということや、流された人を人間カイロで温めて助けたということから、私も東日本大震災のような大地震が来たらこのような活動をしたいなと思いました。今日話をしてくれた先生の知り合いの人は、人を助けようとして亡くなってしまったというのを聞いてとても残念な気持ちになりました。私は今回学んだことを活かしてこのような大震災が起きても亡くなってしまう命を一つでも減らしたいなと思いました。また、人を助けるときは慎重にすることを忘れずにやりたいです。

第１部の最後に歌を披露してくれました。その歌はとてもいい曲で歌詞にも気持ちがこもっているなと思いました。家でも聞いてみたいと思います。第２部の最後には紙芝居を披露してくれました。実際に体験した話を基に制作しているとのことだったので、気持ちが細かく再現されていてとても印象に残っています。Ｆプロジェクトの活動を応援したいと思います。

東日本大震災は他の地震と比べて非常に被害が大きく、死者・行方不明者がたくさんいたことがわかった。東日本大震災以上の巨大地震が来るという想定があるいじょう、私達はこれからももっともっと地震について調べたり、地震が起きたらすぐに高台に登ったりなどということを世の中に知ってもらい、地震が起きても死者数が多くならないようにしていきたいです。今回の震災学習は震災を体験した人と体験していない人のどちらからもたくさんお話をしてもらい、私たちも震災を知らない人がいたら、震災の恐怖や重大さなどを伝えていきたいと感じました。私は誰かの前で話すことが苦手だけど今日来てくれた人みたいに、いつか誰かの前で震災について話してみたいです。

今回の震災学習で、東日本大震災の他にも数々の大地震はあったものの津波によって多くの人が亡くなってしまったこの震災だけである。また、震災でも多くの人の死因が異なることが分かった。津波によって犠牲になる人には逃げ遅れた人の他にも、助けに行って巻き込まれてしまった人がいるのを知って、防げる犠牲なのではないかと思い、それをどうすれば無くせるのか興味を持った。その他にも自分だけ助かって周りが助からなかったのを知り、後悔や罪悪感、自責の念にとらわれる人が出てきてしまうと分かった。また、地域によってはすぐに津波が来るのが分かったので、すぐに高台に登れるようにするための設備を整えておく必要があるのではないかと思った。津波は色々なものを流して襲ってくるのだと思った。

先生から

事実を通して客観的に震災を捉えている人、経験者等のエピソードに自分を重ね、リアリティを持った心情から震災を捉えている人、皆、様々な視点から震災を捉えている。そして、どちらも教訓を導き出して、未来に伝える必要性について触れている。また、多くの人達が、当時の中学生の状況や行動に、感想を書いていた。とても意義深いことだと思う。

日本において、自然災害がゼロになることはないだろう。人は人によって救われる。災害時だけでなく、備えることや日常生活においても、それを体現できる人になってほしい。